

日本語入力変換ソフトウェア

二次元コード（QRコードなど）に含まれる日本語データをPCのアクティブなテキスト入力画面（メモ帳）へ入力するためには、[変換ソフトウェア](#)が必要です。ご存知の通り、PCのキーボードからは、半角英数記号文字を直接入力できますが、日本語（ひらがな、漢字など）入力は、IMEなどでローマ字を日本語へ変換して入力します。

そのため、HID キーボードインターフェイスを使用して二次元リーダから PC へ日本語入力を行うことはできません。日本語入力するためには、二次元リーダのインターフェイスをシリアル通信に変更する必要があります。シリアル通信インターフェイスは、RS232C および仮想シリアル（USB ケーブル接続）通信の二通りがあります。最近の PC には、RS232C インターフェイスが無いため、USB ケーブルを使用して仮想シリアル通信にて日本語データを PC へ転送する方法とします。

1. 事前準備

A. PC 側の準備

仮想シリアル通信ドライバのインストール（初回のみ）

CodeReader に付属している CD マニュアルより Windows 2000/Xp/Vista/7(32/64bit) OS 専用のドライバをインストールしてください。

インストール方法は、「setup.exe」を実行してください。詳細については CD 内の「VCOM ドライバ・インストール」をご参照ください。

注意：本ソフトウェアでは、COM ポート 17 番以上をサポートしていません。

B. CodeReader の準備

1. 仮想シリアル通信モード設定

CD マニュアル内の「C001540_10_CR2_CR3_usermanual_appendixc.pdf」／CR1000 は「C005435-04-CR1000-CR1400-CR8000-Configuration-Guide.pdf」を印刷して 9 ページ D1 「USB Virtual COM 1 Way Mode (M668_01)」／6 ページ A3 「USB Virtual COM One Way Mode (M0005_01)」をスキャンしてください。



M668_01



M0005_01

2. 設定保存

仮想シリアル通信モードに設定した状態を保存するために 20 ページ B3 「Save Settings (M188_02)」をスキャンしてください。CR1000 は不要です。

この設定コードをスキャンしないで CodeReader の電源を OFF すると以前の設定に戻りますのでご注意ください。



M188_02

3. 端末コード設定 [] 内は CR1000

「CR+LF」 19 ページ D2 「Suffix - Carriage Return Line Feed (M170_04)」 [P13 A2 M0139_01]

「Enter」 19 ページ D4 「Suffix - Enter (M161_04)」 [P13 A4 M0141_02]

CR+LF 設定

Enter 設定



M170_04

[CR1000 専用]



M139_01



M161_04

[CR1000 専用]



M141_02

上記設定コードをスキャンすると設定を有効にするために CodeReader は自動で再起動します。

2. 日本語入力

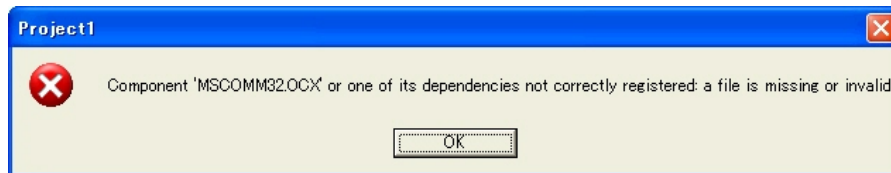
A. 変換ソフトの起動（インストール不要）

添付「SendData_Code.exe」を実行して下さい。 タスクトレイに Code アイコンが追加されます。



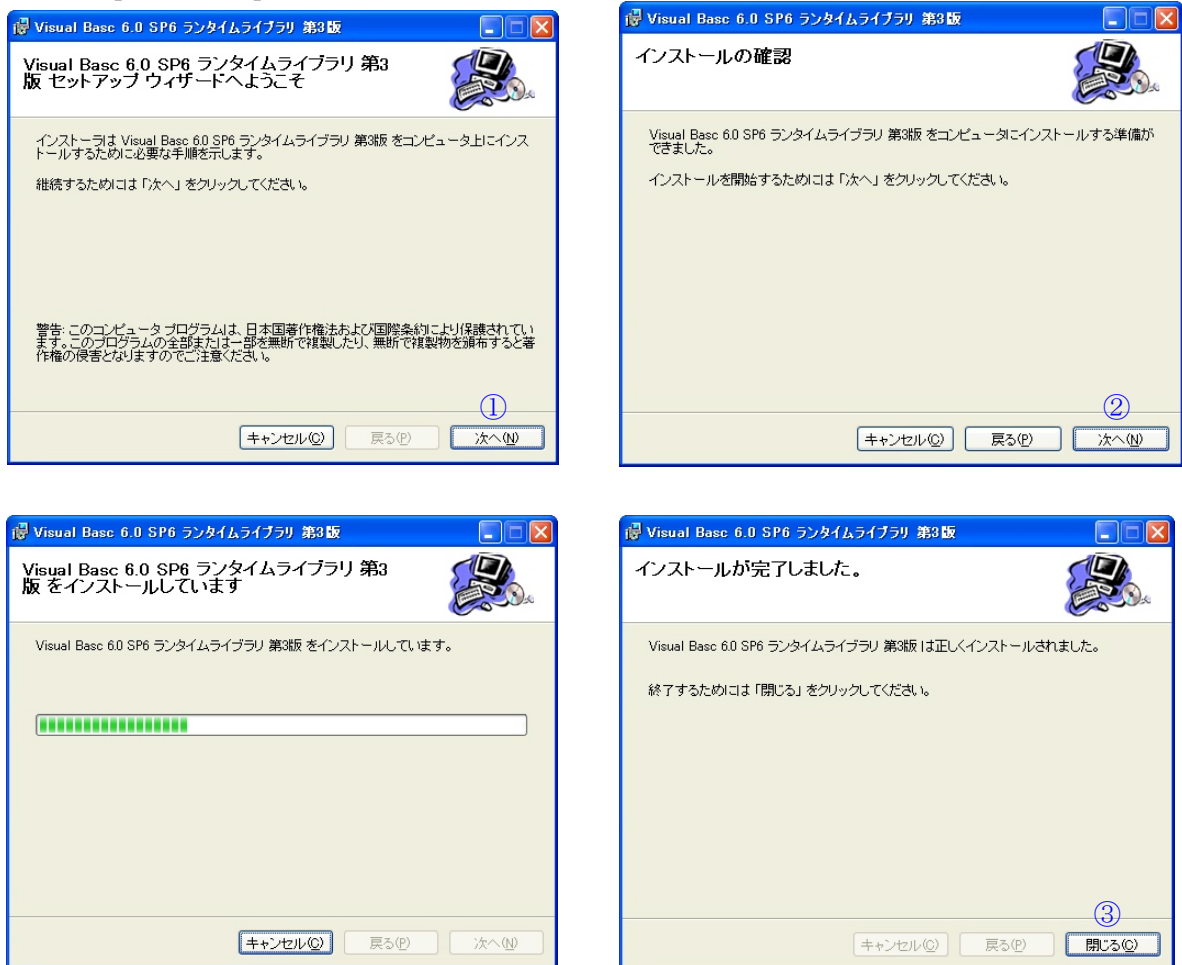
接続先に” COM 番号” が表示されていれば正しく起動しています。
COM ポート番号は自動認識いたします。

下記エラーは、VB6.0 ランタイムが PC にインストールされていないと表示されます。



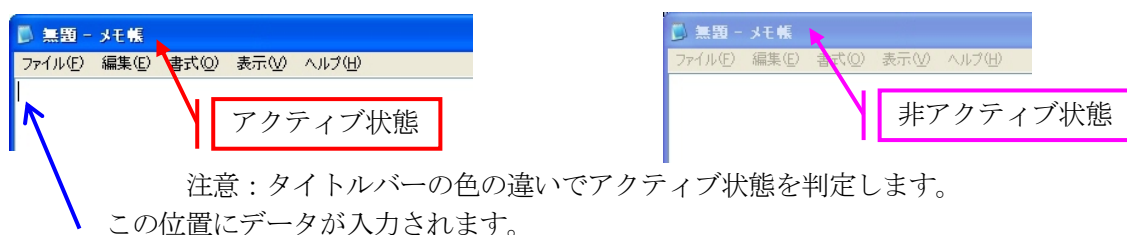
このエラーが表示されましたら Microsoft 社から提供される VB6.0 ランタイムをインストールする必要があります。 一度インストールすると次回以降はエラー表示されません。

添付「¥vb6sp6rt3¥setup.exe」を実行してください。



B. テキスト入力画面（メモ帳）の起動

「スタート」⇒「すべてのプログラム（P）」よりテキスト入力画面を開いてください。



C. データ入力（CodeReader スキャン）

二次元コード、一次元コード（バーコード）をスキャンして、メモ帳にデータが表示されることを確認してください。 スキャンデータの半角・全角に合わせて出力します。

サンプル



CodeReader
コードリーダー・ジャパン株式会社
小型・高性能C o d e R e a d e rシリーズ

上記サンプルコードをスキャンすると右側の枠内の文字が入力されます。

Suffix 設定をキャリッジリターン（CR）＋ラインフィード（LF）コードに設定することで Microsoft 社製 Word やメモ帳などでは、データ出力後に自動で改行します。 ただし、Microsoft 社製 Excel では、改行コードが「Enter」に限定されているため、現在本ソフトでは対応していません。

補足説明：

仮想シリアル通信モードは、通常シリアル通信ソフト（ハイパーターミナルなど）を使用してスキャンデータを受信（表示）します。（キーボードインターフェイスでは、スキャンデータをメモ帳などのカーソル位置に表示します。）

添付「SendData_Code.exe」は、仮想シリアルポートから受信したデータをアクティブなウィンドウのカーソル位置へデータを貼付けます。

シリアル通信ソフトが先にポートを使用している場合には、右エラーメッセージが表示されますので、シリアル通信ソフトを終了させてから再度本ソフトウェアを起動してください。



また、添付「SendData_Code.exe」は、無償にて使用することができますが、著作権はコードリーダー・ジャパン株式会社にありますので無断でコピーの配布・転売を禁じます。 本ソフトウェアの使用によって生じた損害等については、製作者は何も保証する義務を負わないこととさせていただきます。 ご使用にあたっては、十分に調査を行い自己責任でご利用ください。

本ソフトウェアは、予告無く変更いたします。 また、本ソフトウェアに関する質問・要望などは受け付けておりません。

2010年 7月 7日

コードリーダー・ジャパン株式会社